

第4回 農の風景育成ワークショップ
チーム別まとめ

令和4年12月3日 鹿骨小学校

グループワーク 1 あさがおさん

スローガン：手をのばせば恵つながら ～自然の宝きらめく鹿骨！～

- ・近くで野菜や花卉が生産されている鹿骨地区の特性を活かし、生産者と消費者をつなぐ媒体を造ることが重要なのではないか。
- ・旬など野菜が美味しい時期を消費者に PR することができると良い。
- ・市場に出せない規格外野菜の活用を学校と連携して、有効利用する。
- ・農家の困りごとは、区民が活動するアイデアのもととなる『お宝』だと思う。
- ・新型コロナウイルスのためコミュニケーションがとりにくくなってしまったため、生産者と消費者の繋がりをつなぐような、お互いが関われる機会を創ることが必要。
- ・新型コロナウイルスの感染拡大を機に、意図的な「〇」と「○」の繋がり」を新たに築く取組みが必要なのではないか。
- ・野菜や自然とのふれあいなどの楽しさや満足感を共感し、共有できる繋がりがあつたらいい。
- ・地産地消が生産者の基盤となると思う。
- ・公園や街路に花を植え、華やかな鹿骨地区になってほしい。
- ・鹿骨地区の街路樹は、実のなる花にしてみたらどうか。収穫物を地域に還元できる。
- ・花の特色ある公園を地区内に点在させ、どんな時期でも見頃となる地域になつたらいい。

グループワーク 1 えだまめちゃん

スローガン：アナデジ[※]で とにかく発信 とことん発信

- ・江戸川区の特産品である小松菜の PR 冊子「小松菜力。」を積極的に配布。
- ・「小松菜力。」を冊子としての配布だけでなく、Instagram 等の SNS で発信できるようにする。
- ・鹿骨地区にある商店のシャッターを活用し、シャッターアートで地域の特産品である小松菜の PR。
- ・ラグビーなどのスポーツ選手に小松菜の PR を発信してもらおう。
- ・農業広報大使を任命し、鹿骨地区で生産している野菜を積極的に PR してもらおう。
- ・江戸川区出身の Youtuber に協力してもらい、SNS 等で情報を発信してもらおう。
- ・鹿骨地区の区域外に対する情報発信も大切だが、区域内に対する情報発信も必要。
- ・鹿骨の顔になるようなイラスト作成や、鹿骨地区のシンボリックな存在をオーディションで決定し、それをもとに盛り上げる。
- ・鹿骨という地名はインパクトがあるため、そのネーミングを活用し、地区の PR に生かす。
- ・新鮮な野菜が身近にあることで手に入りやすい状況であるメリットを発信。
- ・野菜販売時に生産者の顔がわかると安心できる。
- ・地域の冊子を発行し、地元の魅力等を発信し、鹿骨をもっと知ってもらおう。
- ・農地に PR 看板を設置し、その農家がどんな野菜を作っているのかわかるようにする。看板作成には地域の高校生にイラスト作成を依頼してみる。
- ・QR コードを用いた PR 看板を作成して情報発信をする場合、メンテナンスを定期的に行うメンバーが必要なのではないか。
- ・地域の基地を設置する。活動の拠点等に活用する。

※アナデジ：アナログ・デジタルの略

グループワーク1 こまつなくん

スローガン：江戸川区ベジプロ《Part.1》

- ・「小松菜といえば江戸川区」というイメージがあるが、特産品は小松菜だけでなく、他の野菜もあるのではないか。
- ・江戸川区民約 69 万人が参加できるイベントはできないか。また、その仕組み作りを企画する区民応援団などの活動主体を考えることも大事。
- ・野菜をそのまま作って売るだけでなく、他の手法も必要なのではないか。
- ・江戸川区の特産品である小松菜ばかり注目されるが、鹿骨地区は花きやネギ栽培も活発なのでそういった視点でも考えた方が良い。
- ・販路拡大のため PR していくことも必要。
- ・野菜を地域外に販売することはできていると思うが、地域内への展開が弱い。
- ・区民や本地区に住む方々が気軽に参加できるイベントがあればよいと思う。
- ・区をあげて都市農業を積極的に応援する。
- ・清掃活動や植栽管理を町会費によって実施する方法もある。
- ・花ステーションを設置し、交換会等のイベントを実施してみたい。
- ・野菜を購入するだけでなく、実際に江戸川区の野菜を育ててみる試みは面白そう。

グループワーク1 ばれいしょくん

スローガン：花と緑と味とタイムスリップ

- ・空が開放的に見え、昔を感じられる空間がある鹿骨の特徴を生かしたい。
- ・タイムスリップできるまちづくりが面白そう。
- ・鹿骨地区にある神社との関係性を明確化してみたい。
- ・若い人たちを鹿骨地区に呼び込むため、インスタ映えのするスイーツを作り、SNS で情報発信する。
- ・体験農園を子どもたちにひらかれた、身近なものにしてみたい。
- ・鹿骨の象徴となるロゴマークをつくって、それをもとに地域の情報発信。
- ・農家さんが必要と感じているものを聞き、それを区民で解決できるような取組みをしてみたい。
- ・空き地や休耕地を活用したイベントを開催してみたい。また、江戸川区には外国人も多いためその方たちも参加できるようなものにしたい。
- ・農業や花、食の発信基地となるようなものを鹿骨地区に設置して様々な取組の中心としてみたい。
- ・地区に郷土愛を持ってもらえるように、「鹿骨」という名称の由来を情報発信してほしい。

グループワーク1 ペろんちゃん

スローガン：土から育てる 子供を育てる

- ・鹿骨地区の「土を知り次世代の農をなくさない」取り組みが必要。
- ・農家になりたい人や野菜を作ってみたい人がどのくらいいるか知りたい。
- ・子どもたちが土と触れ合う機会や野菜作りの体験などをもっとさせてあげられるようにしたい。
- ・「育てる→作る→食べる」の生産から消費まで一連の流れを体験し楽しみとなってほしい。
- ・空いている農地や空き地を体験農業の場として提供することはできないか。
- ・イベントで江戸川区鹿骨産の小松菜を知ってもらう。
- ・鹿骨の美味しい地域野菜や地域の緑を守る取り組みがあってもよいのではないか。
- ・地域野菜だけでなく、海外の野菜を取り入れた料理やスイーツを作成、SNS等で拡散し、多くの人の耳目や注目を集めることができるようにする。
- ・野菜の美容効果に着目し、スポーツクラブ等と連携してその効果を情報発信していく。
- ・堆肥で育った野菜は害虫が寄りにくく、人間の体に良いとされるため、江戸川区でも堆肥を積極的に使った野菜作りを推進してもいいのではないか。
- ・街路樹には果実を収穫できる種類の樹木を植え、地域で収穫し還元する。